

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 星ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

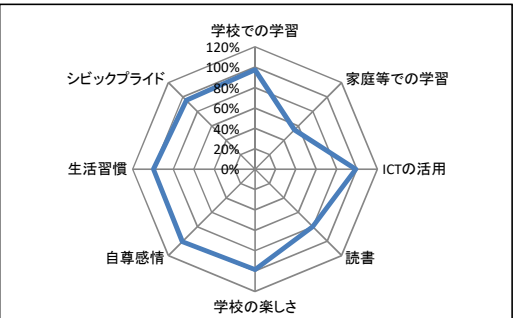
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	成果は「知識及び技能」の定着で、特に語彙や短答式問題で全国を上回る正答率を示した。課題は「話す・聞く」「読む」領域の思考力で、図表の読み取りや記述式の無回答率改善が今後の重点である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	文章中から言葉を抜き出して答える問題	
	努力が必要な問題	記述式の問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	成果は全領域で全国平均を上回り、特に「数と計算」や短答式問題で高い正答率を示した。異分母の加法や複合図形の面積などの記述式問題で、複数の概念を組み合わせた思考力・表現力の育成が重点的な課題である。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	小数における加法の計算問題	
	努力が必要な問題	数直線上の分数の位置を問う問題	
理科	全体的な傾向や特徴など	「地球」領域を中心に既習事項の選択・判断は定着しており、全国を上回る成果が見られる。一方で、実験の目的と方法を論理的に結び付けて記述する設問には課題がある。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	【結果】や【問題に対するまとめ】から、結論を予想して表現する	
	努力が必要な問題	水の温まり方について、調べる必要があることを書く	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「自分にはよいところがある」や「友達関係に満足している」との問いに対し、約9割の児童が肯定的に回答している。高い自己肯定感や良好な人間関係が、学校生活の基盤となっていることが本校の大きな特徴である。 ・算数や理科の学習意欲が全国平均を大きく上回り、ICT機器を「自分のペースでの理解」や「情報の検索」に活用している割合が高い。個別最適な学びにおいてICTが有効に機能しており、意欲的な学習姿勢につながっている。 ・読書習慣や平日の学習時間に課題が見られ、短時間の学習に留まる児童が全国平均より多い傾向にある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

各教科において、ICT端末を思考の整理や共有のツールとして効果的に活用し、自らの考えを根拠とともに表現する力の育成に努める。特に、複数の情報を関連付けて解釈する活動や、多様な考えを比較・検討する対話的な学びを充実させることで、未知の課題に対しても粘り強く論理的に解決しようとする態度を育む。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭と密接に連携し、心身の健康の基盤となる朝食や睡眠等の生活リズムを児童自らが整えられるよう、意識啓発に取り組む。また、読書活動を知識の習得だけでなく、感性を育み、自ら学ぶ意欲を高める重要な機会と捉え、通信等で家庭への啓発にも取り組む。